

分野	13	学校教育	<b>通番 16</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>読書活動の充実</b>		会計	款	項	目	11,670,849	学校教育課
			一般	10	2 3	1		
事業の概要								
確かな学力を育むために読書活動の更なる推進を図ります。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	児童(小学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	30.4(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	32.5	36.2	36.4	34.2	
	指標	生徒(中学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
8.1(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
	実績	7.1	8.2	7.8	5.8		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省が定める「学校図書館図書標準」を目標とし、各校において新規図書の購入及び蔵書の整備を行いました。</li> <li>・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行いました。</li> <li>・図書ボランティアの活用や委員会活動を通して読み聞かせや選書会を実施したり、配架レイアウトの工夫等を行いました。</li> </ul>					図書館司書による読み聞かせ 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の蔵書整備とふるさと納税による購入により、全体として蔵書冊数を増やしており、児童生徒が本を手にとりやすい環境を整えることができました。</li> <li>・図書館司書の配置により、啓発活動や本の借り方指導等を実施することができ、児童生徒が図書館利用、読書しやすい環境を整えることができました。</li> <li>・小・中学校とも一人当たりの冊数が下がっているのは、年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休校したことも影響していると考えられます。(3月分を想定すると年間小学校39冊、中学校6.1冊となります。)</li> </ul>	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が読書する機会を増やすための図書館環境の更なる充実が課題です。</li> <li>・適切な蔵書の更新(古い本の廃棄)が課題です。</li> <li>・年齢が上がるほど、読書冊数は減少し、読書をする、しないの二極化が進んでいる現状があります。</li> </ul>		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、「学校図書館図書標準」を目標とし、蔵書の整備を行います。(古い本の整理も含め)</li> <li>・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備を進めるとともに、図書館だより等を使い児童生徒への読書啓発活動を進めていきます。</li> <li>・読書をする、しないの2極化の現状を踏まえ、授業等での図書館の活用や委員会活動による啓発を進めていきます。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 17</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育てている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>外国語活動推進事業</b>		会計	款	項	目	17,216,919	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
英語教育の充実のため、小学校においては外国語活動指導員(日本人)による授業回数を拡充し、外国語活動の充実をさらに進めます。また、中学校においては、英語指導助手(AET)をアーリントンから招き、ネイティブの英語に触れ、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会を設けることで、グローバルな人材の育成をさらに進めます。 また、英語に対するモチベーションを高めるため、中学3年生を対象に英語技能検定の検定料を負担します。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	京都府学力診断テスト質問紙調査における、「外国語活動の勉強は好きだった」の回答率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	70.0(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	76.3	77.2	73.4	74.0	
	指標(H30年度～)	英語技能検定3級以上の取得率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
23.8(平成27年度)	目標	/			50.0	50.0	50.0
	実績	/			64.6	43.5	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きた英語に触れる機会を作るため、2名のAETを中学校に配置し、英語のコミュニケーション能力の向上に努めました。また、小学校にも延べ72日訪問し、生きた英語に触れる機会を作りました。</li> <li>・ 小学校における外国語活動の指導の交流、工夫や改善をめざすため、小学校外国語活動指導員を各小学校へ配置し外国語活動を行いました。来年度から新学習指導要領が完全実施になることを踏まえ、昨年度増加した時数、3・4年生は年間15時間、5・6年生は50時間で指導を行いました。</li> <li>また、新学習指導要領の完全実施に伴い、指導員のミーティングを年間13回実施し、授業が円滑に運営できるよう連携を図りました。</li> </ul>					<b>中学校英語授業風景</b> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学3年生に対しての英語検定の公費受検を使い、令和元年度は56.8%の生徒が受検し、英検3級以上の取得率も40%を超える結果となりました。</li> <li>・ 昨年度より取得率が下がったのは、令和元年度から会場が統一会場へと変更したことが考えられます。</li> <li>・ 小学校においても、担任への指導資料を作成し、AETと協力して指導に当たることができました。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度から、新学習指導要領が完全実施され、小学校の外国語活動の授業時間数及び学習内容が増加したため、授業を円滑に運営するための研修等が必要です。</li> <li>・ 積極的な広報等を行いより多くの生徒に英検を受験するよう促す必要があります。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は令和2年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、授業前後の打ち合わせを深める等AETとの連携を進めていきます。</li> <li>・ 併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員や専科教員の配置についても検討していきます。</li> <li>・ 中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、英語の授業等で生徒への啓発を行っていきます。</li> </ul> </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は令和2年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、授業前後の打ち合わせを深める等AETとの連携を進めていきます。</li> <li>・ 併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員や専科教員の配置についても検討していきます。</li> <li>・ 中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、英語の授業等で生徒への啓発を行っていきます。</li> </ul>
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は令和2年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、授業前後の打ち合わせを深める等AETとの連携を進めていきます。</li> <li>・ 併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員や専科教員の配置についても検討していきます。</li> <li>・ 中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、英語の授業等で生徒への啓発を行っていきます。</li> </ul>				

分野	13	学校教育	<b>通番 18</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育てている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>中学校米国短期交換留学事業</b>		会計	款	項	2,183,226	学校教育課
			一般	10	1		
事業の概要							
米国アーリントンへの短期留学によって、異文化を知り、自己を相対化する視点をもつことで、グローバルな舞台でも積極的に挑戦し活躍できる人材となれる機会を提供します。							

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	訪米生徒の市民対象報告会の参加人数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	149(平成27年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	151	143	175	198	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本市から4月23日～5月3日の日程で中学生16名と引率3名がアーリントンを訪問しました。</li> <li>訪問中は、ブラケット小学校・オトソン中学校・アーリントン高校で生徒間交流や施設見学をするとともに、アーリントン内・ボストン市内及びハーバード大学・アーリントンケーブルテレビを見学しました。さらに、ホームステイでアメリカ現地の生活を体験し、アメリカ文化を肌で感じることができました。</li> <li>また、7月5日～7月16日の日程でアーリントンの中高生が長岡京市を訪問し、小中学校訪問を含む市内観光を行ったり、児童生徒やホストファミリーと交流を持ちました。</li> <li>帰国後、市民を対象に、生徒達が現地での体験や活動内容等について、映像を交えて発表を行う報告会を開催し、多くの市民に世界に本事業を通じて感じた、異文化を体験する魅力の発信をしました。より多くの市民に興味を持ち、参加していただくため、報告会に向け、市内中学生及びその保護者へ開催チラシの配布を行うとともに、広報誌やホームページにも掲載し、PRしました。</li> <li>新たな取り組みとして、本事業の概要や市民対象報告会の開催、次年度募集に関して、FMおとくにてPRしました。</li> </ul>					アーリントンの訪問風景		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生への事前説明会や広報紙などを通してPR活動を行い、89名の応募者から厳正なる審査の結果、意欲的な16名の生徒を選出しました。</li> <li>訪問団員は約6カ月の英語学習により、英語運用能力を向上させた上で姉妹都市を訪問しました。また、その学習会では、英語以外にアメリカの文化や現地の歴史等についても勉強したため、訪問した際の理解がより深まり、帰国後の報告会でも、生徒から様々な体験や感想が数多く報告されました。</li> </ul>	
課題等	次年度以降の事業実施に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、慎重に判断することが課題です。				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪米団員による活動内容を、それ以外の生徒や市民に報告することで、国際理解をさらに深め、国際人として世界へはばたくきっかけづくりを進めます。</li> <li>市民対象報告会の参加人数を増やすことを課題として取り組んできた結果、参加人数が毎年増え、R1年度は会場の入場可能人数の上限にほぼ達したため、翌年度以降は引き続き同取組内容で、市民対象報告会の開催について広報する予定です。</li> <li>事業を実施する際には、新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮します。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 19</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>中学校給食の導入と 小学校給食施設の改善</b>		会計	款	項	目	374,510,108	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
子どもの育ちを支える観点などから中学校給食実施のための整備を進め、合わせて老朽化している小学校給食施設の改善に努めます。学校給食において地産地消の推進と食育に関する指導の充実に努めます。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標(H29年度～)	小・中学校給食施設の改修状況				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	平成28年度 新規事業	目 標	小・中学校給食施設の改修・設置計画の策定	中学校給食開始に向けて、親校となる小学校給食施設の改修及び子校となる中学校配膳室の準備	中学校給食の開始(2校/4校)	中学校給食の全校実施(4校/4校)	・中学校給食の継続実施 ・小学校給食施設の改修計画の検討
実 績		中学校給食施設の建設及び小学校施設改修計画の策定	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備並びに施設の改修	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備 中学校給食2校の開始	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備 中学校給食3校での実施		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡第三中学校において新たに中学校給食を開始しました。</li> <li>・長岡中学校の給食導入に向け、長岡中学校に配膳室とエレベーターを整備し、年度末には長岡第六小学校敷地内に中部共同調理場を建設しました。</li> <li>・長岡中学校では令和元年度中の給食開始を予定していましたが、工場火災に伴う建設資材の調達遅れの影響により、開始時期が令和2年度1学期に延期となりました。</li> <li>・すでに給食を導入している3中学校と全小学校においては、給食の質を維持しながら、温かい給食を提供することができました。</li> <li>・中学校給食においても、関連部署と連携しながら、地元産農産物を取り入れた給食を提供することができました。</li> </ul>					<b>中学校給食配膳風景</b> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—	—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・新たに学校給食を開始した長岡第三中学校をはじめ、小中学校における食育の取組を推進することができました。	
課題等	・令和2年度からの全小中学校における学校給食の開始に伴い、小中連携した9年間を見据え、より計画的に食育指導に取り組んでいく必要があります。				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携した食育年間計画に基づいた食育指導を実施します。</li> <li>・地元産農産物を活用した給食を積極的に提供し、地元農産物の使用を増やしていきます。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 20</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育てている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>学びをはぐくむ土台づくり支援事業</b>		会計	款	項	13,224,452	学校教育課
			一般	10	1		
事業の概要							
各学校の課題に応じ、大学教員等を講師とした研修による教師力の向上と学力低位層児童生徒の支援(学力向上サポーター配置)を行い、児童生徒の学力向上を目指します。 また、小中学校では、次期学習指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を、デジタル教科書やタブレット端末等のICTを活用して進めていきます。							

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	京都府学力診断テストで正答率が50%未満の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	小学4年生 国語 17.58 算数20.75 中学1年生 国語 13.01 数学34.85 中学2年生 国語 15.01 数学21.79 (平成26年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
	実績	小学4年生 国語 16.13 算数11.29 中学1年生 国語 13.72 数学16.37 中学2年生 国語 10.91 数学20.21	小学4年生 国語 10.99 算数13.11 中学1年生 国語 18.91 数学25.89 中学2年生 国語 15.84 数学17.19	小学4年生 国語 5.09 算数11.11 中学1年生 国語 7.30 数学17.81 中学2年生 国語 13.08 数学22.33	小学4年生 国語 19.61 算数9.94 中学1年生 国語 18.49 数学31.5 中学2年生 国語 4.69 数学17.2		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季休業中には学力診断テストの結果をもとに、各校、学力充実に向けた研修を行いました。研修では大学教授等、専門的、分析的な視点から指導・助言を受け児童生徒の学力充実につなげました。</li> <li>各学校において校内で授業研究を行うなど教職員対象の研修を実施し、教師力の向上を図りました。</li> <li>中学校では学力向上サポーターの配置を行い、基礎基本の定着と学習意欲の向上に向けた支援を行いました。</li> <li>全小中学校で教員用PCの更新を行い、各教室にアクセスポイントを設置しデジタル教科書等の使用をしやすいしました。</li> </ul>					<p style="text-align: center;">校内授業研</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		京都府学力診断テストで正答率が50%未満の割合	小4、中1、中2のどの教科においても、市の割合は府の割合を下回っています。	194
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年より正答率50%以下の割合が増加した教科については、京都府全体の平均点が昨年より低く、問題の難易度による結果であると考えられます。</li> <li>どの教科においても正答率50%以下の割合は、京都府より本市の割合は少ないので一定力をつけていると捉えています。</li> <li>各学校では、授業研究を中心にした実践的研修で、講師の指導助言を得ることで、教職員の意識の変容が見られ授業改善が進みました。</li> <li>各教室にアクセスポイントを設置したことによりICT機器やデジタル教科書の利用の促進につながります。</li> </ul>	
課題等	個々の学力差が大きく、特別支援や配慮の必要な児童生徒や、基礎基本的な学力が定着していない生徒への、個別指導・支援を充実させるための手立ての検討が必要です。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、大学教授等の専門的、分析的な視点から指導・助言を得ることで、さらに授業力の向上を図り授業改善を進めます。</li> <li>各学校において教職員対象の研修を実施し、教師力の向上を図ります。</li> <li>中学校では学力向上サポーターの配置を引き続き行い、基礎基本の定着を目指します。</li> <li>R2年度GIGAスクール構想による児童生徒の端末整備を進めます。</li> <li>学校閉鎖に伴う欠課時数を行事の精選や夏季休業を短縮するなど計画的に回復します。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 21</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>「育ち」と「学び」の支援体制整備</b>		会計	款	項	3,276,857	教育支援センター
			一般	10	1		
事業の概要							
教育支援センターにおいて、不登校やいじめ、心身の発達、学習や学校生活などの教育や子育てに関する課題や相談に専門の相談員等が安心と信頼を醸成しながら丁寧に対応できる体制を充実します。							

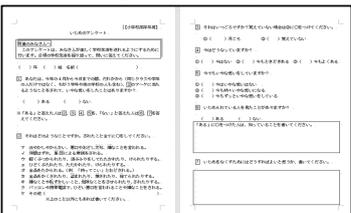
令和元年度の取組							
D (取組)	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(小学校)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	90.1(平成26年度)	目標	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0
		実績	86.4(小学6年生)	86.7(小学校6年生)	87.0(小学4年生)	84.7(小学6年生)	
	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(中学校)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	85.0(平成26年度)	目標	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0
		実績	86.1(中学3年生)	82.5(中学3年生)	92.0(中学1年生)	88.0(中学1年生)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しい場所である第一要素は学習が楽しく学力が身に付くことであり教職員の授業づくりと学級経営、一人一人の子どもに寄り添う特別支援教育と教育相談に関する研修を行いました。また、子ども達の学習の発表の場として「わたしの主張発表大会」「中学生英語暗唱大会」「小学生アイデア作品展」を行いました。</li> <li>・学校が楽しい場所である第二の要素は不安や悩みに対応できる教育相談による心理面、発達面からのサポートが充実していることであり、臨床心理士等による心理相談やプレイセラピー、特別支援教育士による発達検査と就学相談、児童精神科医によるDr来所相談などを実施しました。</li> </ul>						特別支援教育に係る研修会 

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
	達成度合	不登校出現率	昨年の不登校出現率との比較 小学校 0.46 (H30 0.41) 中学校 2.89 (H30 3.39)	195
		B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	・不登校に早期対応するため、文科省委託事業を受け、小学校への臨床心理士とメンタルサポーターの派遣を行いました。(H28~31) 小学校の出現率は0.05上がりましたが、中学校は0.5下がりました。 ・不登校や不適応に関する講演や教育支援センターの相談機能について広く市民に啓発する教育相談セミナーを開催し、相談ニーズへの対応を行いました。 ・不登校となった児童生徒を具体的に受け入れる適応指導教室(アゼリアひろば)について学校・保護者・本人の意図を十分把握しながら対応していくことで中学3年生の進路の実現を図りました。	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に寄り添う教育活動(学習・生活)が推進できるよう教職員研修の形態等も含め工夫改善を行う必要があります。</li> <li>・児童生徒の学校生活を心理・発達の領域から支えるための相談機能を充実する必要があります。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した教職員研修の形態と内容の工夫を行います。</li> <li>・センター機能についてオンラインを活用した相談体制の整備を進めます。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 22</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育てている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>いじめの問題等への対策</b>		会計	款	項	832,800	学校教育課
			一般	10	1		
事業の概要							
いじめ等対策指導員を配置し、いじめ等の実態把握を行うなど、各学校への巡回指導を実施します。各学校では、学期ごとにいじめアンケートを児童生徒に行い、いじめの早期発見・早期対応に努めます。							

令和元年度の取組								
D (取組)	指標	重大事案発生数					単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
		目標	0	0	0	0	0	
	0(平成26年度)	実績	0	0	0	0	0	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2学期といじめアンケート及び聞き取り調査を行い、事象に対する早期対応、および未然防止に努めました。3学期の学校閉鎖中も、気になる児童生徒については電話連絡等で状況を確認しました。</li> <li>・「いやな思いをした」児童生徒については、日々の様子に複数教員で目を配り、約3か月後に再度事象が継続していないかなどの確認を行いました(追跡調査の実施)。併せて、定期的にいじめ対策委員会を実施し、情報の共有を図り、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めました。</li> </ul>					いじめアンケート			
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の出席状況、学習状況、生活環境など把握し教職員との情報共有を行うことで、いじめにつながる芽の早期発見に努めました。</li> <li>・認知件数は、小学校中学校共に昨年度より減少しています。解消率については、中学校では昨年度より高くなりましたが、小学校では昨年度より低下しました。学校閉鎖で十分な聞き取りができなかったことが解消率が低かった要因であると考えられます。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS上など学校以外の場所でもトラブルが発生しており、家庭とのさらなる連携、非行防止教室等の活用をさらに図っていく必要があります。</li> <li>・今後も、日々のきめ細かな児童生徒の観察を行うために、情報共有の場や組織対応での見守りを強化が必要です。</li> <li>・スクールカウンセラー、まなび生活アドバイザー、教育委員会、教育支援センター等関係機関との連携・相談を更に充実していくことが重要と考えます。</li> <li>・早期発見、早期対応に向け、児童生徒の援助希求的態度の育成、自殺予防教育等の取組が必要です。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、学校の情報をもとに児童生徒のきめ細やかな状況把握を行い、必要な場合は学校と対策を協議したり各関係機関と連携を図ったりします。</li> <li>・各校においても、いじめ対策委員会を中心に、教職員全体で情報を共有し、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、いじめ等対策指導員、教育委員会、教育支援センター等関係機関と連携し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を組織的に進めていきます。</li> <li>・非行防止教室などを活用し、SNS上のいじめの未然防止を進めていきます。</li> </ul>

分野	13	学校教育	<b>通番 23</b>
施策	131	学びの充実	
<b>5年後の目標</b>		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>学校での部活動支援</b>		会計	款	項	目	402,260	学校教育課
			一般	10	3	1		
事業の概要								
部活動の充実を支援するとともに、競技力の向上を図るため、遠征費等の充実に努めます。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	長岡京市スポーツ賞のわかたけ賞受賞者数				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	20人 9団体 (平成26年度)	目標	—	—	—	—	—
		実績	23人 7団体	33人 10団体	29人 10団体	27人 7団体	
<p>・令和元年度は府大会50%、近畿大会70%。全国大会100%の補助率で大会出場に係る交通費等の補助を行いました。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>長岡中学校：117,810円  長岡第二中学校：50,370円  長岡第三中学校：197,230円  長岡第四中学校：36,850円</p>					乙訓大会風景		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・令和元年度は、合計402,260円補助を行い、保護者の経済的負担の軽減を行いました。全国大会は、開催場所によっては、相当な保護者負担となる為、各種選手派遣補助金制度は保護者の負担軽減となっています。また、近畿大会へ23名、全国大会へ11名が会場し、生徒全体の競技力の向上が見られました。	—
	課題等	—			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>・今後も、部活動への側面的支援の方法として、遠征費(交通費等)の補助を行います。</p>